

組込み系開発の実践的モデリング ～モデリングはなぜ失敗するのか？～

- 主催：ソフトウェア事業基盤委員会
- 担当部署：インダストリシステム部
- 参加者数：約90名

概要

日本の組込み系ソフトウェア開発の強みは、擦り合わせによる高品質開発にあると言われていたりますが、大規模化・複雑化・短納期化・多機種化の潮流の中で、国際競争力を今後も維持していくことが難しくなっています。このような状況への対処として、ソフトウェア事業基盤専門委員会では、今後3年間の活動テーマにアーキテクチャ設計でも重要であり、組込み系ソフトウェア開発のキーにもなる「モデリング」を掲げました。

今年度はモデリングをテーマにした最初のワークショップとして、モデリングとはどのようなものなのかから始め、何を何の目的で、どのようにモデリングしていくべきなのか、モデリングはなぜ失敗するのかなどの議論を行いました。

今回、大阪大学の春名修介教授による、これまでのモデリング経験を基にした基調講演を皮切りに、富士通の奥村一幸氏と石田晴幸氏、アマダの久我雅人氏によるモデリングの事例講演をしていただき、最後に“全員参加型106人ワークショップ「徹底議論！モデリングの成功のヒントを探る」”と銘打った討論セッションで、参加者

全員の方にモデリングを作成していただき、4名ごとのグループディスカッション、それらを元に活発な議論を行うことが出来ました。

本ワークショップの成果を受け、会社・組織でモデリングを考えるきっかけになり、組織・会社の進化、さらに日本全体の電機・電子業界の成長に寄与できればと考えています。



プログラム

○開会の挨拶「ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動について～ワークショップ2014の狙いと課題認識」

JEITA ソフトウェア事業基盤専門委員会 委員長 五味 弘 氏（沖電気工業(株)）

○基調講演「実践的モデリング論～難しいことを考えずにモデリングを実践するには～」

大阪大学大学院情報科学研究科 春名 修介 教授

○事例講演1「ExcelとEAを駆使したモデル設計現場適用例とMBSE展開に向けての課題」

奥村 一幸 氏（富士通(株) 共通開発本部 ネットワーク管理ソフトウェア開発統括部 プロフェッショナルエンジニア）
石田 晴幸 氏（(株)富士通コンピュータテクノロジーズ 組込みシステム技術統括部 アーキテクチャ部 アーキテクト）

○事例講演2「組込ソフトの開発現場におけるモデリング事例」

久我 雅人 氏（(株)アマダ 板金機械開発本部 ソフト開発部門 第一ソフト開発部）

○全員参加型106人ワークショップ「徹底議論！モデリングの成功のヒントを探る」